風を探して——
ママさん探訪記

「えっ、チャイムが鳴らない学校ですって?!」

一人一人の「存在感」を育てる教育に取り組む菊水中学校

教育は、私たちにとって身近で、そして重要なテーマです。しかし、その教育を語る時、家庭が果たす役割、学校が果たす役割を区別して論じがちなのはなぜでしょうか。そんな中、菊水町立菊水中学校は、生徒、教師、保護者がそれぞれの存在感を高め、連携して教育に取り組んでいます。

そこで今回のママさん探訪記では、学校が家庭や地域と信頼感で結ばれ、それを基盤に質の高い教育を推進している菊水中学校を訪ねました。子どもたちの成長を見守る教育、教育環境整備のあり方についてお話を伺ってみました。

子どもたちの明るい笑顔が魅力です

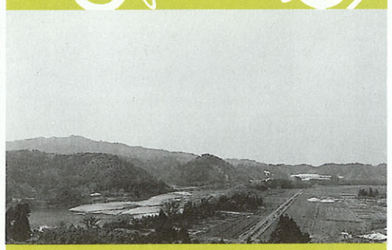
先生・PTAの皆さんと

ノーチャイム制で育つ自主自律の精神

防音を兼ねたというお城のような白壁の塀の門をくぐると次々と「おはようございます」の声。まだどこかあどけない生徒たちからの快い挨拶を受けながら、私たちは、校長、教頭、指導主任の先生、PTA代表の皆さんが待つ教室へと向かいました。早速、生徒さんの素直な感じや学校全体がとても静かで精神的にも落ち着ける環境であるように感じたことを伝えると、「学校の中でノーチャイム制をとっているんです。一日に二回、始業時と午後の始まりにしかチャイムを鳴らしません」という校長先生の答えが返ってきました。さらに「ノーチャイム制にすると、生徒たちは自分で時間に対する意識を持ち、コントロールするようになります。この日頃の習慣が定着して、修学旅行の時も、集合時間に間に合わなかった生徒はいませんでした。先生から信頼されていることを生徒たちが知っているので困らせるようなことはしません」というお話でした。

ノーチャイム制を可能にした菊水中学校の教育計画は、「一人一人の存在感を育てる」という命題を基盤に実践されています。例えば文化祭での演劇で、シナリオから道具、衣装づくりまで何らかの役割を生徒全員に与えて取り組ませていることなどその一つです。また、地域の行事である古墳祭りへの参加、通学路の空缶拾い、老人ホームへの慰問や一人暮らしの老人への年賀状書きなどによって、生徒一人一人が地域の中で、確実な「存在感」を持っているのです。

一方、先生方は、全生徒の名前をテストまでして覚えられるそうです。それが生徒の存在を認める第一歩だからです。


菊池川が流れる静かな田園地帯

学校・家庭・地域ではぐくむ教育

菊水中学校の教育の特徴は、この「存在感」を生徒だけでなく、教師、保護者もそれぞれ高め、連携して役割を果たしているところにあります。一般に忙しく時間がないといわれる先生たちですが、学級会、部活動の指導など学校内の行事はもとより地域行事、懇談会にも参加し、保護者や地域の人たちとの理解を深める努力をされています。また保護者側には、「家庭にあってはまず子どもの意見を聞く。そうすることが子どもの存在を認めることであり、子どもに自分の意見を持たせることになる。また、連絡事項だけのPTA懇談会ならなくていいと思っている。開かれた学校と子どもという起点をもとに保護者の横のつながりを広げていくことが大切」(田川PTA会長)という認識が深いようです。さらに、歴代のPTA会長や教職員を招いた「菊水中学校を語る会」や住民を講師に迎える「町の先生」など、地域の教育力を積極的に利用して、子どもを取り巻く環境づくりを大人が責任を持って取り組んでいる様子は、どこの地域校区でも取り組めそうだなと心強く感じました。

「実は今日、菊水中学卒業の高校生を呼んで『タバコを吸ってはいけない』と叱ったところなんです」という話がでました。小学校や、進学先の高校と密接な連絡を取り合いながらのきめ細かな教育は「地域で育てる」という感じでうらやましい限りです。教頭先生の「『菊水』という地域性が学校の応援をし、子どもたちを伸ばします」という言葉に表れているように、保護者に地元出身者が多く町にたった一つの中学校——「地域の中学校」という意識が高いからとはいうものの、他地域のマンモス校であっても決して無理なことではないと感じました。

学校・地域が一体となった駅伝大会

自分に、人に「存在感」を認める素晴らしさ

「一つがうまくいくと次々にユニークな取り組みが生まれ、目標も実績を上げながら高まってきました。生徒、教師、家庭とそれぞれが一体となって努力した結果でしょう」と校長先生。

菊水中学校は、今、一番輝いている状態だと思います。それは、学校で取り組んでいる「存在感」というものを、子どもたちが自分の中に認めることができているからだと思います。「自分の存在を認めること」「人の存在を認めることができること」。これらは生きていくうえでの基本です。この基本に従えば、子どもたちが大人になっていく過程で「自分は何のために生きているのだろうか」という悩みにぶつかったとしても、その答えは自分自身できっと見つけていくに違いないと思います。また、今、問題になっている「人権」や「環境」、「福祉」などの問題の解決の糸口も見つかるのではないかという気がします。

菊水中学校の、地域ぐるみで取り組む教育とその効果を目の当たりにして私たちは、身近なところから、出来ることから教育に対する意識を変えていかなければいけないと思いました。

今回レポーターの本田さん・宮島さん